

HKFA Technical Report 2019

2019 ナショナルトレセンU-14 地域対抗戦総括

日時
2019年11月21日(木)
～11月24日(日)

会場
時之栖スポーツセンター
静岡県裾野市下和田420-12

JFA
・ナショナルトレセンコーチ 山橋 貴史
北原 次郎

HKFA
U-13チーフ 白崎 健策

U-14チーフ 枝村 昭

GK 佐藤 誠一郎



U-13 成果と課題

U-13は、フィールドプレーヤー11名・ゴールキーパー2名の計13名での参加となった。

9月下旬に行なったエリートキャンプのときからトレーニングの中で伝えてきた「攻守において味方を1人にしないこと」を今大会でも大切に、NTC地域対抗戦を戦った。

この4日間で、選手達は試合を重ねるごとにレベルの高いプレーのインテンシティー、スピード感に慣れてきて、攻守において味方との繋がりを持ちながらプレーしようという余裕も持てるようになり、攻守にトライしてくれたと思う。実際、まだまだテクニックの面でも、個人戦術の面でもミスは多い。ただし、「相手ゴールまでボールを運ぶこと」や「ボールを中心とした守備でボールを奪いに行くこと」が、試合を重ねるごとに、できるようになってきたことは、成果として挙げられる。

課題としては、「ゴール前の攻防の質」が挙げられる。攻撃では「シュート精度の低さ」や「得点シーンに関わる人数の少なさ」が目立った。動きながらも質の落ちないテクニックがあれば、得点になる場面でも正確なプレーができずに、相手に守られてしまう場面が多かった。また、予測してアクションを起こせば、ゴール前で関われる場面でも優位な状況や状況の変化に気づかず、アクションを起こせなかった。特に、逆サイドにボールがある時は、思考が止まってしまう傾向にあり、攻守における思考の連続性も大きな課題であると感じた。

守備の課題では「突破してくる相手と同数にも関わらず簡単に失点してしまう」ところが挙げられる。後方を同数にしてでも、ボールを奪いに行くなかで、奪えずにボールを運ばれてしまったシーンでは、GKと協力してスピードの吸収(ディレイ)、シュートコースの限定をするべきであったが、準備が悪いため、リアクションで飛び込んでしまい、相手により優位な状況をあたえてしまうことが多かった。

決して、相手を上回るパフォーマンスを発揮できたわけではなかったが、日常より高いレベルに触れて、自身の課題に取り組み、成長する姿が、4日間で見られたことは、北海道の選手たちにとって大きな経験になったと思う。

今回見えた成果を更に良くしていきながら課題を克服していけるように、これからも道内の育成年代の指導者の皆さんで頑張っていけたらと思う。また、本事業への参加にあたって、所属チームの選手を派遣していただいたことも含め、多くの方に感謝申し上げます。

U-14 成果と課題

リーグ戦4試合は、初日の対関東には2-4で敗戦。二日目の中国には2-5で敗戦。JFAアカデミーには0-3で敗戦。最終日の東海には6-2快勝という結果であった。守備においては課題が多くあった。ボールを失った瞬間から奪い返す切り替えが遅く、ボール保持者の状況と相手や味方の位置を把握して相手に突破のパスを出させないように、遅らせながらポジションを取ることが課題だった。1stDFのアプローチに連動して2ndDFがポジションを取り、予測をしてプレーすることも課題だった。また、ボールを失った時に、自分たちの状況が数的優位なのか、劣位なのかでボールを奪いに行くのか、時間をかけて守るのかという判断を連続していく部分に課題があった。中盤や自陣で自分のマークに意識が行き過ぎて危険なスペースや後方の選手へ縦パスを入れられ、ディフェンスラインを突破される場面が多くあった。守備のONとOFFの個人戦術を理解してプレーすることが課題だった。ただ、徐々に切り替えが早くなり、ボールへのプレッシャーを厳しくかける場面が増えてきて、ボール保持者に制限をかけるようになるとOFFの選手のポジショニングが改善され連動した守備でボールを奪える場面が増えてきたことは成果だった。

攻撃においては切り替わった瞬間にONの選手が、自分の状況（プレッシャーをうけていること）を認識できず、ボールを失う場面が多く見られた。また、ボールを奪った瞬間に、ボールを受ける準備ができていない味方（前方への視野を持っていない・動き出していない）にパスをし、簡単にボールを奪われてしまうシーンも多く見られた。攻撃のONとOFFの個人戦術においても課題があった。

しかし、試合を重ねるごとに、OFFの選手の準備が速くなり、攻撃の優先順位を共有してDF背後へのパスや縦パスを入れて前向きに関わるサポートを増やし相手ゴールへ攻め込む場面が多くなった。決定機を決めるシュート力は課題だが、多くのチャンスを作り出したことはよかった。地域対抗戦を通してチームとして課題を共有し、改善に近づけることができたと思う。

今回の地域対抗戦に関わりまして、選手を快く派遣していただきましたチーム指導者の皆様、保護者の皆様に感謝申し上げます、お礼とさせていただきます。

GK 成果と課題

＜ゲームの中で見られた良いプレー＞

- ①タイミング良く、ボール保持者に対して素早いアプローチをし、しっかり体全体で壁を作ってブロッキングで防ぐ場面が多かった。
- ②ゴールキックのときや、流れの中でボールをGKが保持したときに、相手が前がかりにボールを奪いに来ている状況を把握し、中盤のサイドやFWへ少し長い距離のパスを選択してチームの前進につなげる場面が何度もあった。（キックの成功率をさらに上げること、両足を同じように使えることは課題である。）
- ③チームが相手コートで攻撃しているときも、常にリスク管理のコーチングを行い、相手のカウンターを防ぐことができた場面が何度もあった。

＜ゲーム中に見られた課題＞

- ①出る、出ないの判断を迷ったり、失敗することが何度も見られた。原因としては、自分の立ち位置と姿勢が良くなかったこと、ボールの出し手と受け手の状況を把握し、予測を立てておくことができていなかったことが挙げられる。
- ②相手がサイドから攻めてきたときに、「ボール状況や中央や逆サイドの状況を観る、観ておく」→「予測」→「自分の準備（立ち位置と姿勢）+仲間に伝える」ことができていない場面が多かったので、サイドから失点したり、クロスが入ってきた時にピンチになる場面が多かった。
- ③つかむorはじくの判断と、はじくのテクニックが良くなかったために、相手にチャンスを与えてしまう場面が何度も見られた。

